

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03247

研究課題名(和文)スリランカ系タミル人によるインド舞踊の発展と再々構築化に関する全体関連的研究

研究課題名(英文)Contribution of Sri Lankan Tamil to the Evolution and Re-reconstruction of Indian Dance: A Relational and Holistic Approach

研究代表者

竹村 嘉晃 (Takemura, Yoshiaki)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・外来研究員

研究者番号：80517045

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インド舞踊のグローバルな隆盛におけるスリランカ系タミル人の関与に着目し、国内・海外の研究協力者と協働してインド・欧米諸国・東南アジアの動向を有機的に結びつけ、その実態を全体関連的に把握することを目的とした。バラタナーティヤムのグローバルな受容動向とスリランカ系タミル人ディアスポラの動態に関する文献研究をふまえ、1) 芸能の継承を通じたコミュニティの強化と再編、2) 実演家たちの移動とグローバルなネットワーク、3) 新たな協同関係のなかで生じている「タミル化」の進展、という視点からフィールドワークを実施し、その現状を明らかにした。国際学会・ワークショップでの研究発表によりその成果を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は、インド舞踊の事例からグローバル化をめぐる議論において看過されがちなマイノリティの関与に注目し、芸能のグローバルな発展をディアスポラたちの文化継承として捉えるだけでなく、インド・欧米・東南アジアにおける具体的な動向を有機的に結びつけ、人の移動と文化接触による影響や難民とホスト社会との摩擦や軋轢といった現代的な課題を考える上での新たな視点をもたすことにある。本研究の成果は、「芸のキャリア」として実演家個人に着目する視点を実証し、マルチ・サイト民族誌の手法を用いて彼らのネットワークと媒介者の役割が芸能のグローバル化の実態を捉える際に有益であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on involving the Sri Lankan Tamils in Indian dance 's global prominence. It studied organically related developments in India, Southeast Asia, Europe and North America in conjunction with domestic and overseas research partners to establish a systematic approach to the study of the situation. The aim of this analysis was to get a comprehensive and appropriate understanding of the realities of the situation. In addition to a literature review on the global acceptance of Bharatanatyam and the dynamics of Sri Lankan Tamil immigration, special attention has been paid to the following perspectives: i) the strengthening and transformation of the culture through the transmission of Indian performing arts, ii) the performers and their global networks, iii) the growth of the "Tamilisation" that is taking place ii. At international workshops and international conferences several papers based on the findings were presented.

研究分野：芸能人類学、南アジア地域研究

キーワード：インド舞踊 グローバル化 バラタナーティヤム スリランカ系タミル人ディアスポラ グローバル・ネットワーク タミル化 タミル人性 アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

2000 年以降、急速に進展したグローバル化は、インド社会に様々な影響を与えただけでなく、インドの音楽・舞踊文化を取り巻く環境にも大きな変容をもたらした。その変化とは、上演形態・演目・楽器・振り付け・衣装などの技術的・物質的側面だけでなく、それらを支えてきた経済的基盤や実演家とパトロンとの間の社会関係、欧米諸国への人の流動化に伴う実演家の演奏活動のグローバルな拡大、さらにはインターネットなどのメディア技術の発展・浸透による表象にも如実に表れている。

インドの音楽・舞踊文化に関する従来の研究は、音楽・舞踊を地域社会と明確に分離することなく、伝統に根ざす文化実践としてその歴史や芸態を厚く記述してきた (cf. Kothari 2000; Neuman 1980; Wade 1983)。しかしながら、今日のインドの音楽・舞踊文化は、国内はもとよりインド系ディアスポラを中心にグローバルに受容され、また演じる側と様々な資本とが結びつくことによって多様な形で商品化・消費され、かつインドに環流している。同時に、グローバルな空間においては、受容をめぐるポリティックスを通じてラベル化され、新たな意味づけや宗教実践が思わぬ形で生起するエージェンシーにもなっている。

このような状況に関して、グローバル化の影響を考慮した近年のインド芸能研究 (cf. Chakravorty 2009; Chakaravorty & Gupta 2010; Charsley & Kadekar 2006) は、形式の多様化や環境の変化、新興中間層による消費については論じるものの、グローバルな隆盛を支える多様なネットワークや新たに刻印される価値づけの影響を看過している。また当該地域の移民コミュニティを分析対象とはするものの、欧米のインド人社会で実践されている芸能の変化に関心が偏り (cf. Farrel 2005; Thobani 2017)、「人の移動」を中心軸にした地域ネットワークの変化やメガシティからグローバル・ネットワークへと拡がっている地帯が捉えられていない。グローバル資本主義の影響による都市中間層の受容動向に関する従来の研究を補完する意味で、メガシティと欧米諸国や東南アジアを往来する実演家たちの実態と新たなネットワークについての実証的な研究が不可欠であり、さらに両者を総合した研究へと発展させることが求められる。

2. 研究の目的

インドの舞踊文化は、国内だけでなく世界中に拡散するインド系ディアスポラを中心にグローバルに受容されている。本研究は、インド舞踊 (ここではバラタナーティヤム) のグローバルな隆盛に関する議論において、これまで注目されてこなかったスリランカ系タミル移民の関与に注目し、国内外の研究協力者との協働により、インド・欧米諸国・東南アジアにおけるその動向を有機的に結びつけ、全体関連的に把握することを目的とした。とくに、1) 実演家の移動を基軸としたグローバル・ネットワークの確立、2) ホスト社会やグローバルな政治・市場と戦略的にかかわりながら、古典舞踊の継承を通じたコミュニティの強化・再編の動向、3) ホスト社会の文脈のなかでナショナル化・南アジア化されたインド舞踊が新たな協同関係のなかで「タミル化」へと再々構築している実態、これらを実証的に明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

本研究は、研究組織の構成員 3 名 (研究代表者、国内研究協力者 1 名、海外研究協力者 1 名) と海外情報提供者 3 名による (a) 資料収集と文献研究、(b) 現地調査による研究を進めた。申請時には、4 名の海外研究協力者との協働を予定していたが、諸事情により調整がつかず、内 3 名には情報提供者として国際学会で面談した際に各自の調査地の情報提供を求め、意見交換を行った。なお、構成員の所属と役割分担は、本研究課題終了時の 2020 年 3 月時のものである。

研究組織

| | 氏名 | 所属・職名 | 役割分担 |
|---------|------------------|---------------------------------------|---------------------------------|
| 研究代表者 | 竹村嘉晃 | 国立民族学博物館・外来研究員 | シンガポールのスリランカ系タミル移民社会と芸能調査 |
| 国内研究協力者 | 寺田吉孝 | 国立民族学博物館・教授 | カナダのスリランカ系タミル移民社会と芸能調査 |
| 海外研究協力者 | Ann N. David | ローハンプトン大学舞踊学部・教授 (イギリス・ロンドン) | 欧州のスリランカ系タミル移民の宗教・芸能調査 |
| 海外情報提供者 | Ketu Katrak | カリフォルニア大学アーヴァイン校演劇学部・教授 (アメリカ・アーヴァイン) | アメリカのインド芸能とスリランカ系タミル移民の影響に関する実態 |
| " | Munjulika Rahman | ウィリアム大学舞踊学科・助教 (アメリカ:ウィリアムズタウン) | マレーシアのスリランカ系タミル移民の芸能実態 |

| | | | |
|---|---------------|-----------------------------------------|----------------------------------|
| # | A. P. Rajaram | プレジデンシー大学パフォーミング・アーツ学科・助教 (インド・コルカタ) | 南インドのスリランカ系タミル移民の流動とネットワークに関する実態 |
|---|---------------|-----------------------------------------|----------------------------------|

本研究は、プロジェクト全体と関わる文献研究をふまえ、研究代表者と研究協力者が個々に進めてきた、1)スリランカ系タミル移民コミュニティにおけるバラタナーティヤムの受容に関する実態調査の継続、2)比較事例を参照するために海外情報提供者からの調査地の状況に関する情報収集、3)多国間を包摂する「スリランカ系タミル人ネットワーク」と実演家のグローバルな移動に関する調査を行った。これらの調査研究を通じて、特定地域における現地調査を基点にしつつ、時間軸（過去と現在）、空間軸（インド・スリランカ・欧米諸国・東南アジア）、社会軸（故地・ホスト社会・移民社会）を交差させながら、中心軸となるスリランカ系タミル移民を相対化し、かつ総合的に向かう方法論の確立を目指した。

こうした総合化の必要性は、インド芸能のグローバルな隆盛を扱う近年の研究の多くが大都市のとくに中間層の受容に関心を集中させていることや、マクロな視点からのグローバル資本主義の影響やミクロな特定地域におけるディアスポラの実態報告にとどまり、インド-スリランカ-欧米諸国-東南アジアを含めた大きなネットワークにおけるつながりや関係の複数・多層性にまで視野が及んでいない現状への反省から来るものである。

4. 研究成果

従来の研究が見過ごしてきたスリランカ系タミル人の関与に着目したことで、インド舞踊(バラタナーティヤム)のグローバルな隆盛をめぐる多様な実態とそこで希求される「タミル人性」の概念が明確になりつつあり、フィールドワークから具体的な事例の積み上げができた。

フィールドワークは、竹村がシンガポールとスリランカで計4回、寺田がカナダのトロントで2回実施した。竹村は、シンガポールのスリランカ系タミル人コミュニティの状況が欧米とはかなり異なることを指摘し、植民地期に入植した旧移民(セイロン・タミル)とスリランカの民族紛争後に移住した新移民(スリランカ・タミル)との間の相互交流が希薄であり、旧移民の若い世代が教育・雇用の機会を求めて欧米に移住する傾向が強く、その結果コミュニティが縮小し、バラタナーティヤムを自文化として継承するものの「タミル人性」やコミュニティの再編を求める動きに結びついていないこと、また新移民のスリランカ系タミル人舞踊家たちの作品やネットワークに「グローバル・インド」への指向性が伺えることを明らかにした。

寺田はカナダ・トロントでのフィールドワークから、スリランカ系タミル人コミュニティとインド系タミル人コミュニティの両者の住み分けや摩擦を指摘し、前者では「タミル人性」への希求が強く見られ、タミル語の演目を中心に公演が行われるだけでなく、同様の演目を上演するタミル人舞踊家がインドから招聘され、ワークショップが盛んに開かれている実態を明らかにした。Ann はイギリス・ロンドンでのフィールドワークから、スリランカ系タミル人コミュニティにおける「タミル化」の動きをもたらすアクターとしてヒンドゥー寺院の司祭を指摘し、彼らが催事の場でバラタナーティヤムの起源をデーヴァダーシー(寺院付の子女)の踊りと位置づけ、ヒンドゥー神への奉納舞踊として再文脈化させている実態を明らかにした。

4年間の研究では、スリランカ人研究者をコメンテーターに招いた研究会と国内研究者との研究進捗状況の確認や情報共有の報告会を年度毎に2度行った。プロジェクト全体として行った大きな業績としては、2019年4月27日に国立民族学博物館で東洋音楽学会西日本支部と共同で行った国際ワークショップ“Globalization of Indian Dance: the Evolution of Bharatanatyam among Sri Lankan Tamils Communities”がある。国内・海外研究協力者を招聘して行った同ワークショップでは、「タミル・アイデンティティ」という概念の検証を行い、北米・ヨーロッパ・シンガポールにおけるスリランカ系タミル人のバラタナーティヤムの受容動態を比較検証した。東洋音楽学会員の研究者が多数参加し、他地域の芸能をめぐる状況との比較など、非常に意義のある意見交換が行われた。ここでの発表をさらに発展させ、2019年11月にはシンガポール(The 3rd Asian Consortium of South Asian Studies Conference, South Asia in Context: Genealogies and Trajectories)12月にはスリランカのコロナボ(UVPA International Research Symposium - 2019 in Collaboration with ICTM Research Group - Harvard University)で開かれた国際シンポジウムにおいて研究発表を行った。これらの発表を通じて得た知見や参加者からの助言をふまえ、英文ジャーナルへ投稿する論文の執筆を進めている。

本研究では、インド芸能のグローバル化をめぐるこれまで看過されてきたスリランカ系タミル人の関与に注目し、その特徴や共通性、地域差などを明らかにすると共に、グローバル・ネットワークに関わる媒介者の存在や初舞台公演(アランゲートラム)の社会的機能、芸能研究におけるマルチサイト民族誌的な方法論の有効性を指摘した。そして、従来の研究のようなディアスポラ・コミュニティ内の動態に視点をおくのではなく、媒介者や「芸のキャリア」[塚田 2019]となる実践者個人が築きあげたネットワークからグローバル化の動態を描き出す具体的な事例の積み上げができつつある。さらに、本研究を基盤とした研究プロジェクトが国際共同研究加速基金に採択されたことも大きな成果であり、今後さらなる研究の発展が期待できる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 竹村嘉晃 | 4. 巻 42 |
| 2. 論文標題 書評・塚田健一著『エイサー物語 移動する人、伝播する芸能』 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 舞踊學 | 6. 最初と最後の頁 77-79 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1. 著者名 Yoshiaki Takemura | 4. 巻 none |
| 2. 論文標題 Reluctant Pedagogies: New Media, Dance, and the Indian Diaspora in Singapore | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 International Workshop Globalization of Indian Performing Arts in New Media Situation: Dynamics of Cultural Gyre, Workshop Proceedings | 6. 最初と最後の頁 pp.55-66 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|-----------------------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 Yoshitaka Terada | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 Negotiating intangible cultural heritage | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Minpaku Anthropology Newsletter | 6. 最初と最後の頁 8-10 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|------------------|
| 1. 著者名 竹村嘉晃 | 4. 巻 155 |
| 2. 論文標題 芸能のグローバルな伝播・発展に関する研究動向 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 民博通信 | 6. 最初と最後の頁 25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件）

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 Tamilness or Global Indianess?: Evolution of Bharatanatyam and Sri Lankan Tamil Diaspora in Singapore |
| 3. 学会等名 UUPA International Research Symposium - 2019 in Collaboration with ICTM Research Group - Harvard University (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 Decline in Interest or Emerging New Platform Evolving?: the Transformation of Bharatanatyam among the Indian Diaspora Communities in Singapore |
| 3. 学会等名 The 3rd Asian Consortium of South Asian Studies Conference, South Asia in Context: Genealogies and Trajectories (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 'The Arts Power on!': the Development of Indian Performing Arts and the Germ of Cultural Policy in the Early 1960s in Singapore |
| 3. 学会等名 The 48th Annual Conference on South Asia (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 Identification of Traditional Values in the Performance of the Ramayana amongst the Indian Diaspora in Singapore |
| 3. 学会等名 The 45th International Council for Traditional Music (ICTM) World Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|----------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 竹村嘉晃 |
| 2. 発表標題 インド芸能から考える舞踊民族誌の視角 |
| 3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「音楽する身体間の相互作用を捉える ミュージッキングの学際的研究」 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 The Decline of Interests and the New Emerging Agencies: Bharatanatyam and Sri Lankan Tamils in Singapore |
| 3. 学会等名 東洋音楽学会西日本支部第283回定例研究会 / 科研「スリランカ系タミル人によるインド舞踊の発展と再々構築化に関する全体関連的研究」共同開催 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshitaka Terada |
| 2. 発表標題 A craze for dancing: Bhrarata natyam and Sri Lankan Tamils in Toronto, Canada |
| 3. 学会等名 東洋音楽学会西日本支部第283回定例研究会 / 科研「スリランカ系タミル人によるインド舞踊の発展と再々構築化に関する全体関連的研究」共同開催 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 'The Arts Power on!': the Development of Indian Performing Arts and the Germ of Cultural Policy in the Early 1960's in Singapore |
| 3. 学会等名 Jointly organised Workshop by South Asian Studies Programme, NUS and Japan Society for the Promotion of Science: Rethinking Development: Networks, Brokers and Devotion |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 竹村嘉晃 |
| 2. 発表標題 シンガポールにおけるナショナルなインド舞踊の発展: 芸術文化政策の黎明期を中心に |
| 3. 学会等名 日本南アジア学会第 31 回全国大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 竹村嘉晃 |
| 2. 発表標題 インド舞踊のグローバル化の萌芽: インド系シンガポール人のライフヒストリーをもとに |
| 3. 学会等名 南アジア地域研究国立民族学博物館拠点2018年度MINDAS「移民・移動」班第1回研究会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 Performing Ramayana: Contact Zone, Singapore Indian Dancers and their Reflexivity |
| 3. 学会等名 The 5th Symposium of the ICTM Study Group On Performing Arts of Southeast Asia (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------------------|
| 1. 発表者名 竹村嘉晃 |
| 2. 発表標題 インド芸能事始め: グローバル化の中で隆盛するインド音楽・舞踊文化 |
| 3. 学会等名 川西市民族学講座 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 竹村嘉晃 |
| 2. 発表標題 シンガポールにおけるバラタナーテイヤムの発展とスリランカ系タミル人の関与 |
| 3. 学会等名 南アジア地域研究国立民族学博物館拠点2017年度「音楽・芸能」班第2回研究会 / 科研「スリランカ系タミル人によるインド舞踊の発展と再々構築化に関する全体関連的研究」共同開催 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 寺田吉孝 |
| 2. 発表標題 南インド古典舞踊とスリランカ系タミル人 - トロントの現状 |
| 3. 学会等名 南アジア地域研究国立民族学博物館拠点2017年度「音楽・芸能」班第2回研究会 / 科研「スリランカ系タミル人によるインド舞踊の発展と再々構築化に関する全体関連的研究」共同開催 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 Reluctant Pedagogies: New Media, Dance, and the Indian Diaspora in Singapore |
| 3. 学会等名 "Globalization of Indian Performing Arts in New Media Situation: Dynamics of Cultural Gyre" (科学研究費補助金・基盤研究B「インドにおける新しいメディア状況と芸能のグローバル化」成果報告) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 Rediscovering 'Indianness' or 'Belonging': Singapore Indian Dancers and their Encounter with Southeast Asia at Ramayana Festivals |
| 3. 学会等名 The 1st Asian Consortium for South Asian Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Yoshiaki Takemura |
| 2. 発表標題 The Transmission and Development of Indian Dance in Singapore in the 20th Century |
| 3. 学会等名 South Asian Studies Programme Seminar Series, Faculty of Arts & Social Sciences, National University of Singapore (招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 竹村嘉晃、信田敏宏、福岡正太他 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 832 |
| 3. 書名 信田敏宏編 『東南アジア文化事典』 | |

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 Yoshitaka Terada etc. | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 Routledge | 5. 総ページ数 320 |
| 3. 書名 Barley Norton and Naomi Matsumoto (eds.) Music as Heritage: Historical and Ethnographica Perspectives | |

| | |
|------------------------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 竹村嘉晃、福岡まどか、福岡正太他 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 スタイルノート | 5. 総ページ数 489 |
| 3. 書名 福岡まどか・福岡正太編 『ポピュラーカルチャー：アイデンティティ・国家・グローバル化』 | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 竹村嘉晃、寺田吉孝、杉本良男他 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 770 |
| 3. 書名 インド文化事典編集委員会 『インド文化事典』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------|----|
| 研究協力者 | 寺田 吉孝 (Terada Yoshitaka) (00290924) | 国立民族学博物館・その他部局等・教授 (64401) | |